

アブドゥラ ウズム「日本留学の感想」

現代の世界はインターネットやテレビなどの普及によって国と国、人と人の距離が縮小し、国際化しつつあります。何千キロも離れている場所に発生した情報を直ちに得ることができるのは、技術の進歩とともに国際化のおかげでもあるのではないかと思います。社会のグローバル化が進む現代、異文化を知ることが一層重要になってきています。

自己を国際人と定義する人にとっては異文化に対しての理解や接触は欠かせないものがあります。外国に住んでいるなら一層居住している国の法律を守り、周辺に迷惑をかけない努力をすべきであります。その国の伝統、文化や習慣などを身につけ、お互いのことを理解できるように協力した方が良いのではないかと思います。その際に、偏見や差別の目を持たないことがこれらを達成するために必要不可欠であります。特に留学生が外国に居住していることを意識しながら、行動すべきであります。

私もこのようなことを意識しながら日本に留学しました。日本に留学したきっかけに日本の技術や文化を学ぶのはもちろん、日本とトルコの懸け橋になることもその一つでした。日本は欧米やヨーロッパ、特に母国のトルコからの留学生が少ないため、日本の伝統や文化が知っている外国人が少ないと思います。そのため日本に留学することによって、日本語もできるようになり、その上、日本人の友達も数多くでき、日本の文化や伝統も身に付けたと思います。トルコ人である私にとって、非常に異なった環境や文化の中で勉強したことは、ただ単に学業だけではなく、国際人になったきっかけでもあります。

私の専門である、太陽電池の開発において日本は世界でもレベルの高い国の一つであります。日本人のスピリットである自然に対しての優しさはとても興味深いところです。自然に対しての優しさは日本の技術にも表れています。特に太陽電池をはじめ様々な環境に優しい技術が開発されています。原発問題をきっかけに将来は日本で省エネや再生可能エネルギーやこれに関連した太陽電池等の技術に対しての支援や思いが続くことによって日本は国内のみならず、世界の環境問題に向けた解決の先進国になるのではないかと思います。日本はアジアに経済的にも技術的にも貢献している国であります。

海外で得た経験や知識を母国や世界の各国の発展のために貢献するのは国際人のひとつの役割であります。私も将来母国に帰国し、日本で取得した知識や経験などを母国の発展のために貢献したいと思います。例えば、トルコは現在発展途上国であり、経済成長が目覚ましく進んでいるのでこれからエネルギーがより一層必要となってきます。トルコだけではなく、できればエネルギー不足しているアフリカや東南アジアの各国のためにも何かできればと思います。

国際化しつつある世界の人々がお互いに偏見なく、貢献しながら相互を支えることによってより平和な世界になるのではないかと思います。

Abdullah Üzü

アブドゥラ ウズム